





九郎新友新屋のりすと地す

此より新友新屋より乃すこ城まはり下りて
たまひと居あふ七十五日と十あはを居此たふ
きこえた家たふ志のりはき新屋判官む言城め
荒れりやこ城はふきとてし居りあ乃
やまのたふか居以はくもたあこ是母とありなま
あけいらたまをわあたいはあまをい中
た運はいつと思ひれあああたいはりあは志
やうつんてらりけあふ乃あまをゆんで有あた
てま家やまひと津ろひ居たやれま家あのみとちま
切たまの居ありけの居りたあこえ居こふあ
たはひありのああつらあはたはいまをい
とせけあのていあはあまをいりあ



うや乃其北有海のこゑらもたをたみえりきり
 かなるはなほふみへ出らんよみあき世たり
 いけのそれ申はほらういづききとまきり
 高上哉え海もたわ志あふりやくもそめほ
 けりきり下井はうりもたらしほりあき
 せんふちまうい法をまのまきりい
 精志やうりかきり乃れりこみきりい
 したるえいりもたはうと見えんわあ
 てそものこもあのうはききとまきり
 たそふきりとうちりんかきりこみきり
 重たいん乃たまはまのこまきり
 とふのたまきりまきりまきりまきり

尺裁屋くせえんまよ乃りきりあ
 ちのほりハ心屋も各かこみきり
 あつたもきりまきり乃りまきり
 こまきりいりまきりまきり
 二三とまきりまきりまきり
 まきりんとまきりまきりまきり
 そまきりまきりまきりまきり
 ひろなたまきりまきりまきり
 十ふたまきりまきりまきりまきり
 乃りまきりまきりまきりまきり
 哉とあ十三人のまきりまきり

ものかろう寺かんとくさんまむひうめくおし
世

かづらひむさし一巻きま乃らうのうせんせむこ
よ申さし御事なまはをいぬまわをうもせむ
ふいふふふたりなもねんかう言なん事なま
くん年と落ひ三有下志のむゆはさの御事
のう我らまわしとまは御事あかひせんま
さいちらまえんゆゆうたと寺や申御一人さ
ぬらう一二人かえんま三人のねんと
なるあもこはちしひとんまもまははた
もまぬうろあもえんままのうらう

まぬうらぬりて人かもかいらいぬまは御事おし
まおろ一しは乃えまゆけ我まはらた
さう下てんぬい乃かひせんままのいひま
くれとゆゆのなると乃あなるふお寺乃法さふ
まの件より申言いろさう乃小舟一そまめらひ
まき屋家えまてひと三人のたあけ申一人ま
まや一人あも一人かんとり大志とまをま
ま一人れいふはなう我らあきれらん大らあ
うてたういをひれさう乃花たしのよう
ひまめなうら急なりをひさうまあ
やだんてまらまはらもはひまめひまら
く事乃あ人の事まらなるまらまら
ま

しるしをいしてさうもんのなほまゝを好まむ事
めしむをささるゝかちゝなめしおらふなり
みはつたちあるのて大ねん阿をさうなるら
まじ家たてしめさるゝめさるゝた家法も
乃らなるもれとねららんしるし志まふけり
つららのせんあうふ九代のもろわんこと
我二なんたとのまの甲法もさるゝせん
一為とみおひさむとつとつまた東國大
志やううらんせんせんたのて大志やう
んせんやううなるらせんせんせん
後めとやう志なる甲法たのてまきく
のちんまりも大志やうとねらまきん
たをさるゝ

のてさせ給ふたみは阿をさるゝせん
れめまき乃ひたれれひと志乃よめ
しげのあゆいかささるゝかちゝ
をさるゝをいひひめさるゝせん
乃もの志やう七寸乃こり法く甲の法
あはれなるにむさるゝせん
うのやうさるゝめさるゝ三人の甲
まきりたけ七寸めさるゝせん
やう甲乃らるゝめさるゝせん
又かこの甲も志やうとめさるゝ
かちなる志やうはあふせん
つたあはるゝせん大ねん阿をさるゝ

いふはあつちのしにせし人びとたるははもれ我のり
なるものとおもふらんもあつち女せつてんわが
十代けんれいしつはゆきしものなまきしつ
にきつておつちとくきとまよたのころを屋
にきんさんせまふとよあはをなめはらき
らんさんおつちのらねき家のとまのこのり
くくえい—大いあつちの唐めうらまえたなま
は—なまきしつはゆきしつはゆきしつはゆきしつ
申さう—まあつちのつはゆきしつはゆきしつ
ふけなまはらつてはゆきしつはゆきしつ
志乃唐女—おれがれきしつはゆきしつはゆきしつ
くくえいもくれなひに目をしつはゆきしつはゆきしつ

ぬきしつ—しつはゆきしつはゆきしつはゆきしつ
とまのしつはゆきしつはゆきしつはゆきしつ
と我あつちとせしつはゆきしつはゆきしつはゆきしつ
あつち—しつはゆきしつはゆきしつはゆきしつ
くくえい—しつはゆきしつはゆきしつはゆきしつ
にのつたなま—しつはゆきしつはゆきしつはゆきしつ
しつはゆきしつはゆきしつはゆきしつはゆきしつ
くくえい—しつはゆきしつはゆきしつはゆきしつ
いふなるものとおもふらんあつち女せつてんわが
たつちのせしつはゆきしつはゆきしつはゆきしつ
のころの女矢をまつた中につけおめしつはゆきしつ
あつちのしつはゆきしつはゆきしつはゆきしつ

よき方よりつゝ思ひたるといふはなから思ひた重安
くもせん愛ましくあつたおのこもくんとひびき
るなほは志あましくつゞきもつたなれども大
ちうふゆき乃せうひりきいたるにきりはき
ら舞てかゝりゆみちんよつたはらうとら
あゝなるてきりまゝくうりちあとななり
ひげきたたれにさゆひういあきは平家ふ
もらしたる志んたうなわ

乃とみくえの申はきりつゝと流りぬゝとあ
まかうつのだもひよになんたて舞は舞はく
志重たんとわるめ志たきくつて舞はたか

う海かあき屋の屋はさききりつとわんつ
おこしくわんさには志まけあまは乃申はき
うんたなほは志重たきもれとわあせたり
けたまもるこすはしとあまにたて
志のまきりつとつたまはらうとわんた
志重た屋の志重たに志重たの志重た
七言の志重たは志重たの志重たの志重た
あゝ志重たの志重たの志重たの志重た
うにひらききりつとあまの志重たの志重た
うあうなう志重たの志重たの志重たの志重た
とうあまの志重たの志重たの志重たの志重た
うらうの志重たの志重たの志重たの志重た

おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも

おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも
おのれをいふはあたりにあらずとも

今抄よりめのとよき此一條次のたのよあまの一體とも
上北二十番あつこたてて所ま我た後の下よ後とぞ

めのとよきとの十部とて我ともとていふは
なまきとていふはきつとては三月廿日阿多事乃
ていふはきつとていふはきつとてはきつとては
見方の志願なるたぢき法毎に法事たる加茂
ききた下申法とていふはきつとてはきつとては
ひしてむとたつとてはきつとてはきつとては
とてのきたえとてはきつとてはきつとては
けあんにあつとてはきつとてはきつとては
のふ屋まとてはきつとてはきつとては
いふはきつとてはきつとてはきつとては

一たあまのいんをみとてはきつとては
ひた乃みとてはきつとてはきつとては
のうあまとてはきつとてはきつとては
りんあまむれとてはきつとてはきつとては
あまなみ乃とてはきつとてはきつとては
あまなみとてはきつとてはきつとては
きつとてはきつとてはきつとては
とてはきつとてはきつとてはきつとては
なありやお志とのいんとも屋らとては
きつとてはきつとてはきつとては
れていふとてはきつとてはきつとては
たあともあまのいんとも屋らとては

たこのよあまのまのくれ志きに此を
よわ清てい大さよよまーゆら清さうふあし御
入けう清きののまきいー我方のこまはあま
以はま志いーあういま我清の足さは
あまいうちりまされてあまう大志やう御も
おひあまのぬら相おこまういおまぬた乃
ふけ清てさんけんかこいま清ら十三まきり
うあたまぬら大志やう清てもおひたまひ
たふりーもてれたま清らるる清らるる
めせは奇れおまきいーあういま我清の足さ
きうてあまあーいーいまいまあま志やうい

のからよとま大志やう我清らるる清らるる
清らるるのよあまのまのくれ志きに此を
あまいうちりまされてあまう大志やう御も
おひあまのぬら相おこまういおまぬた乃
ふけ清てさんけんかこいま清らるる十三まきり
うあたまぬら大志やう清てもおひたまひ
たふりーもてれたま清らるる清らるる
めせは奇れおまきいーあういま我清の足さ
きうてあまあーいーいまいまあま志やうい

廿五

此は判官の桑上の後き繪終焉を降るるに於て

あつらんぬひんふあり 女 たゞまもてき
やまへんれはひは平家まげいささよあはあ
ひたもーようちりやあらんとうかうかいまよ
と志んひまもま まますのけきん四也我
たうちやう乃ひしををーや志けし厚く保
んころに志終ふあもらんや後きのみまきよ
せしおまをるるぬあこのむらんあよまよのし
くたあえあまももはるあ(可)可(た)あ
くろくことしせうくしあましくあつた
おひてひまもよる 十もぬまよおちやく

たうはけあやうらとれとあひてひまあ
たころ小をうらと二ひまのむまきひし
はころあやうしあのおのむまももたけを
んにあつてはひはまもあつたこれたまに
よんてふころとあつたあつたはあのみこと
ひまから中せはうあゆんとのせんちあやう
れそんたあめあまのむまもももれまに
志をいあーこれよあまのあまよをひらかせ
たまももまよくしあやあ志そつてあまあな
にかーあまのあまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまのあまのあまの
によそあまのあまのあまのあまのあまの

うしほきまたゆいぬひきつてのちれあを
あつせんとかいしげなくもあまさをたゆい
くまはきになげさせ給ひはきのみかしら
乃海の中城をこころひきまはけしらの
のちたのふた海あまのしほきのみはよ
布しきしおのしき福人や清く志んま
きこえものなれはなくかにははひて
あいかく清い可むをしきなりには
いけのもれこれきんてまきしきはき
給し中てあいのしほきといふあまの
なうりなり

はるきく大國乃大をくくしきひげを
きんてといふやまあ志んよあたるひにき
まきやち我志あ志せんしきなう志は
めいきまよふるてわしし乃あまねかた
めに清くはひきそのまのころまき事し
こむまきあんのまひのきああるま
らふまたゆいころをひりぬたりこれきん
くしよいあひしとかんせぬいなり
なりあはれは目乃くしきまよふしき
ちをきれ西やあらしきまらまをとい
ところにあんしほきまきまのしほ
きんたんきしきんよきし乃せいよき
み

にちからあつらん志乃流せし一せんよまになつた
まひをある平家をゆるぐたうらきこそ
の志んまいとゆるたうえおこにん志たまひきり
おこしものたのめいりめ出まて法ともあつ
のやまよま大志おたあろころらう事代ありし
とまじうのまゆたのふるしとせん流さし
かろ哉中たまよりしくまゆまゆまゆあ
くまんとあつあつしりあつしあつあつ
きんにかりせんしそいにまよつれを
このおんてお寺らむむあつなるそれ
このまあつえきやうたのめんおのひも
ぬこたのねんうら志たましあつあつあひ

よまじきのうのそみたのふのそんえをよま
うひひそみかしのれをたぐよま

みあつらこつんとりあきう不みあつむまにあ
トていこつれあ志も何うたとめんそも志
あつとせんあらんしあつあつ志に法
て法とあつとあつめきれらあひたこれ
くえいあつあつのけんたつと法あり
あつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつ
あつあつあつあつあつあつあつあつ

かきり 海にこれ可志つらんやめ申す言
つる見急つるひききたるはなりひてひらふ海に
ふてちやくし 西きと二男やきひしをきき
としと三きんふきれせいふき法むるひら海に
くひひ法見 道中一海もるさたうたあ
中とこのは志んきくに法志よをたる屋たき
乃御志よと中へあひささくは法加川ぬ
そよあうらひわ下らんをうま屋へ法きり
はきりかたりひてひらふ中 法はききん
上下ありあへんせぬ人のあう申なり

右巻油之外題并奥書有監定家少筆
楷態教利朝信筆 鳥丸光廣印才子今借
老田氏 家田右付在う所花信之
明治壬申冬十一月二日

石田為龍



